

学校給食センター(浅科・望月)の集約化について

1 方針内容

市では、令和4年度に行った関係の皆様への説明を経て、学校給食浅科センター及び学校給食望月センターについては、『浅科センターの老朽化が顕著なことから、令和8年度までを目途に望月センターの施設改修を行い、浅科センターの機能を集約化することとします。』
この方針を個別施設計画に位置づけ、今後必要な業務を進めていきます。

2 これまでの経緯

○個別施設計画の策定

- 少子化による人口減少などに伴い、厳しい財政状況が見込まれる中で、公共施設等の適正な配置や管理の効率化を図る必要があります。
- 「佐久市公共施設等総合管理計画」の基本方針に定めた以下4つの視点に基づく具体的な取り組みを着実に進めていくため、各施設における今後の方向性等を定めた個別施設計画の策定を進めてきました。
 - 1 「量的見直し」
 - 2 「質的見直し」
 - 3 「費用負担の見直し」
 - 4 「管理体制の見直し」

○学校給食センターの個別施設計画の策定

- 学校給食浅科センター・望月センターにつきましては、施設及び厨房機器等の老朽化、学校給食衛生管理基準を考慮するとともに、当該地区の児童生徒数の将来推計、他の給食センターの状況等、施設の有効活用、コスト面などから判断して、望月センターへの集約化を方針としてお示しました。
- 令和4年度において、この市の方針を関係者、保護者、地域住民等の皆様に説明をさせていただきながら、協議を行い、ご理解を深めていただく中で、令和8年度を目途に浅科センターを望月センターに集約することを個別施設計画に位置づけることとしました。

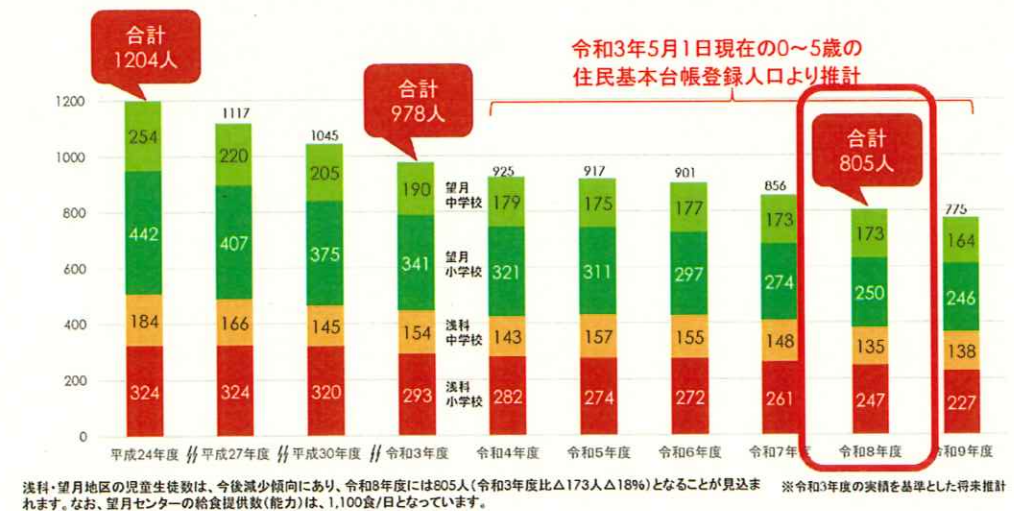


3 集約化に関する説明要旨(要約)

【概要】

- 浅科センターは建築後40年が経過し、老朽化が進行しています。
- 浅科センターは現行の学校給食衛生管理基準を満たしておらず、建て替えには現在の敷地を超える面積やコストが必要です。
- 当該地区の児童生徒の減少傾向と施設能力を踏まえると、浅科・望月地区の給食を望月センターで提供することができます。

区分	浅科センター	望月センター
建築年	昭和57年(40年経過)	平成16年(18年経過)
建物構造	鉄筋コンクリート(RC)造平屋建 260㎡	鉄骨造2階建 749㎡
提供校	浅科小学校 浅科中学校	小学校 1校 中学校 1校
児童生徒数	417人 (R4.4)	487人 (R4.4)
給食提供数(能力)	700食/日	1,100食/日
現在提供食数	500食/日 (R4.4)	550食/日 (R4.4)
事務職員	正職0.5人(望月兼務) 会計年度任用職員1人	正職0.5人(浅科兼務)
栄養士	県職員(栄養士)1人 会計年度任用職員1人(アレルギー担当)	県職員(栄養職員)1人 会計年度任用職員1人(アレルギー担当)
調理員数	正職1人 会計年度任用職員5人	正職2人 会計年度任用職員6人
配送	会計年度任用職員1人 (センター職員が配送)	会計年度任用職員2人 (センター職員が配送)



【課題と改善策】

- ・ 集約化した場合の配送時間は、浅科小中学校で長くなりますが、配送トラック(2tロングトラック2台)の確保などにより、できる限り短縮に努めるとともに、保温性の高い食缶を導入することにより、適温でおいしい給食の提供をしていきます。
- ・ 浅科小学校では、身近で給食が作られなくなりますが、各センターの特色あるメニューの継続や、浅科・望月の学校給食応援団の皆様が一体となり、より広範囲で充実した食材提供をしていただくなど、より充実した食育活動を進めていきます。

【集約化に合わせた施設整備】

- ・ 集約化する望月センターには、「アレルギー専用調理室」を整備し、より安全安心なアレルギー対応食の提供を行います。
- ・ 浅科小学校の特徴である「ランチルーム」をリニューアルすることで、より快適に給食を楽しめる場はもとより、「食育」や「地域交流」など多目的な利用の場を確保します。

【コストについて】

○浅科センターを単独で存続する場合

区分	浅科センター	望月センター	計
① 施設整備費	約7億8,000万円	—	約7億8,000万円
	改築費用(設計監理・用地費*は除く。)	当面は現状維持	
② ランニングコスト	約2,000万円/年 (R2決算額)	約3,300万円/年 (R2決算額)	約5,300万円/年
③ 必要人員	10.5人 (R4体制)	12.5人 (R4体制)	23人

※仮に浅科センターを改築する場合、上記の衛生管理基準を満たすには現況の2倍以上の建築面積が必要となります。さらには、給食提供業務を継続させながらの敷地内の現地建て替えは難しいため、小学校敷地外に用地の確保などが必要となります。

○集約化する場合

区分	浅科センター	望月センター	計
① 施設整備費	約2億2,600万円	約1億円	約3億2,600万円
※当該事業費には設計監理	・厨房機器撤去、解体 ・給食受室新設	・アレルギー専用調理室改修	

費等も見込む。	・給食受室仮設工事*1 (約9,300万円)	・コンテナ室増築 ・プラットホーム増築 (約7,500万円)	
	・ランチルームリニューアル(長寿命化改修)*2 (約1億2,500万円)	・車両、備品等購入費 (約2,500万円)	
	・浅科中学校給食受室改修*3 (約800万円)		
② ランニングコスト	約3,800万円/年 (R2決算 同規模センターを参照)		約3,800万円/年
③ 必要人員	15人 (R4 同規模センターを参照)		15人

集約化により、施設整備で約4億5,400万円の削減、ランニングコストで約1,500万円/年の削減が見込まれます。

(※いずれも概算数値であり、浅科センター建て替えの用地費等が見込めないなど単純比較ができません。あくまでも参考値(目安)となります。)

【総論】

- ・ 施設の有効活用・コスト面から、両施設をこのまま維持していくことは、市全体から見て難しいと判断せざるを得ません。また、浅科センターと望月センターを集約することで、浅科小学校に併設する給食センターがなくなることになりますが、これを補う前記対応により、浅科・望月地区の児童生徒の皆さんへ、安全安心でおいしい給食の提供が安定して行えると判断できることから、両センターを統合することが、最善の方法であると考えます。
- ・ その集約化の時期は、令和8年度を目標とします。

4 説明等実施経過

○保護者・地元住民等への説明

月日	時間	事項	内容	対象	会場	周知方法等	出席者
7月8日(金)	19:00	地元説明会	集約化概要説明	望月地区保護者	駒の里ふれあいセンター	保護者あて通知及び区回覧による周知	13名
7月12日(火)	19:00	地元説明会	集約化概要説明	望月地区区民	駒の里ふれあいセンター	保護者あて通知及び区回覧による周知	10名
7月13日(水)	19:00	地元説明会	集約化概要説明	浅科地区保護者	交流文化館浅科	保護者あて通知及び区回覧による周知	17名
7月19日(火)	19:00	地元説明会	集約化概要説明	浅科地区区民	浅科支所複合施設	保護者あて通知及び区回覧による周知	15名

休日の追加開催

月日	時間	事項	内容	対象	会場	周知方法等	出席者
10月16日(日)	10:00	地元説明会 (休日の追加開催)	集約化概要説明	望月地区保護者・区民	駒の里ふれあいセンター	小中学校保護者あてオクレンジャー等による通知、保育園幼稚園保護者にも緊急連絡網等により通知及び一般向けとしてホームページ・SNSによる周知	11名
10月16日(日)	15:00	地元説明会 (休日の追加開催)	集約化概要説明	浅科地区保護者・区民	浅科支所複合施設	小中学校保護者あてオクレンジャー等による通知、保育園幼稚園保護者にも緊急連絡網等により通知及び一般向けとしてホームページ・SNSによる周知	12名

※このほか、地元区長会、両地区学校給食応援団、学校教職員等への個別説明も行ってきました。

○意見募集（パブリックコメント）の実施

I 意見募集の概要

(1) 意見の募集期間

令和4年12月1日(木)から令和4年12月15日(木)

(2) 周知の方法

ア 市ホームページ・SNS（ツイッター・LINE・フェイスブック）

イ 浅科・望月地区小中学校、保育園、幼稚園に安否確認システム緊急連絡網による一斉通知（白鳩幼稚園は保護者宛て文書による）

(3) 方針（案）の公表方法

ア 市ホームページへの掲載

イ 佐久市役所市民ホール、各支所総務税務係窓口、学校給食課窓口に閲覧用として設置

ウ YouTubeによる説明動画配信

(4) 意見の募集方法

ア 電子メール

イ 郵送

ウ ファックス

エ 直接持参（佐久市教育委員会 学校給食課）

II 意見募集の結果

(1) 提出された意見 8件※全件電子メールによる送付

(2) HP閲覧回数 101回（12/1～12/15）

(3) 説明動画視聴回数 95回（11/24～12/16）

（浅科センター外観）

